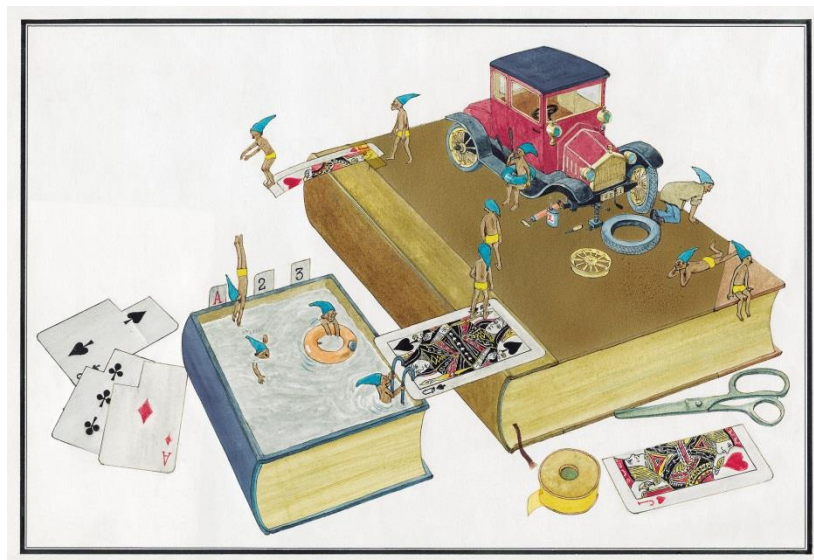


# 安野光雅の ふしぎな絵本展

Mitsumasa Anno – Illustrator of Wonder

静岡県立美術館

2018年7月14日 [土] → 9月2日 [日]



ふしぎなえ 1968年  
©空想工房

画家、絵本作家、装丁家など、半世紀以上にわたり多彩な活動を続ける安野光雅。「ふしぎ」をテーマとする本展では、想像力にみち、幅広い学識と豊かなユーモアをたたえた絵本原画104点を中心に展示し、安野のあふれるような空想の世界をご紹介します。絵本デビュー作である『ふしぎなえ』をはじめ、『もりのえほん』や『ABCの本』、科学や数学をテーマにした『天動説の絵本』、『かぞえてみよう』などの原画からは、綿密な描写のもたらず美しさのみならず、そこに仕組まれた楽しい仕掛けを発見する喜びをも味わうことができるでしょう。安野光雅が創り出す「ふしぎ」の世界を、この夏、どうぞお楽しみ下さい。

# 出かけよう、「ふしぎ」の世界！

## ◆開催情報

□展覧会名 安野光雅のふしぎな絵本展

Mitsumasa Anno – Illustrator of Wonder

□会期 2018年7月14日(土)–9月2日(日)

□会場 静岡県立美術館 (静岡市駿河区谷田53-2)

□開館時間 午前10時～午後5時30分 \* 展示室への入室は午後5時まで

□夜間開館 8月4日(土)、11日(土・祝)、18日(土)、25日(土)は午後7時まで開館

\* 展示室への入室は午後6時30分まで

□休館日 毎週月曜日 \* ただし、7月16日[月・祝]は開館、翌17日[火]が休館

□観覧料 大人:1,000(800)円 70歳以上:500(400)円 大学生以下:無料

\* ()内は前売および20名以上の団体料金。前売券は7月13日(金)まで販売

\* 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は無料

\* 収蔵品展・ロダン館も併せてご覧いただけます

□主催 静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送



□特別協賛 清水銀行

□特別協力 津和野町立安野光雅美術館

□企画協力 アートキッチン

□チケット販売所 【前売券は7月13日(金)まで販売】

[前売・当日券]

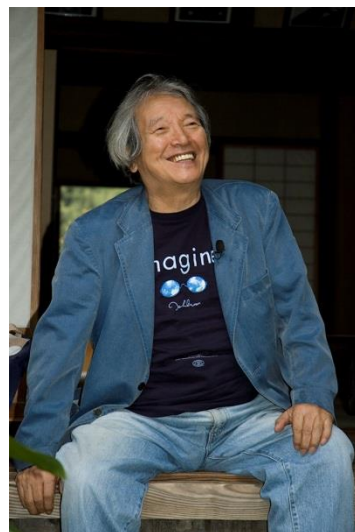
チケットぴあ、サークルK・サンクス、セブンイレブン(Pコード共通 769-059)、ローソンチケット、ミニストップ(Lコード共通 43726)、セブンチケット、CNプレイガイド(ファミリーマート)、静岡県立美術館

[前売券のみ]

大和文庫、戸田書店(静岡本店・江尻台店)、谷島屋(パルシェ店・マークイズ静岡店)、吉見書店(竜南店)、大丸松坂屋友の会、静岡県庁本館1階売店、静岡市美術館ミュージアムショップ、グランシップ、JR草薙駅前一部店舗

### ◆安野 光雅（あんのみつまさ）

1926年、島根県津和野町生まれ。教師を務めるかたわらデザインや装丁の仕事を手掛け、1968年に『ふしぎなえ』で絵本作家としてデビュー。美術のみならず科学・数学・文学などにも造詣が深く、エッセイ、画文集、装丁など幅広い分野で活躍する。知的で独創性あふれる作品は、国境を越えて子どもから大人をも魅了し、1984年に絵本のノーベル賞ともいわれる国際アンデルセン賞を受賞。その後も、菊池寛賞(2008年)、文化功労者顕彰(2012年)、中国文化賞(2014年)など、数々の賞を受ける。2001年には、故郷の津和野町に安野光雅美術館が開館した。



### ◆略年譜

- 1926(大正15)年 3月20日、島根県の津和野町に生まれる。
- 1932(昭和7)年 津和野小学校入学。2年、4年、5年の担任の先生の影響で、画家になりたいと思う。
- 1938(昭和13)年 津和野高等小学校入学。
- 1939(昭和14)年 津和野を離れ、宇部の高等小学校に転校。
- 1940(昭和15)年 宇部工業学校採鉱科に入学。絵をさかんに描く。
- 1942(昭和17)年 この頃、倉敷の大原美術館に行く。ゴッホやセガントーニ、マチス、ロダンなどの作品を見て感激する。
- 1945(昭和20)年 炭鉱で働く。5月に召集、現在の坂出市に陸軍船舶兵として配属。終戦後の9月、復員。
- 1947(昭和22)年 代用教員として、徳山市加見小学校に勤める。
- 1950(昭和25)年 上京。翌年三鷹市立第5小学校の図工科教諭となる。
- 1952(昭和27)年 結婚。武蔵野市立第四小学校へ転勤。
- 1955(昭和30)年 実験的な授業が注目を集め、美術の教科書編集に携わる。
- 1962(昭和37)年 出版関係の仕事が増え、市立小学校の教師を辞し、講師として私立明星学園で教える。
- 1963(昭和38)年 初のヨーロッパ旅行。
- 1964(昭和39)年 教え子の父であった福音館書店の編集者、松居直が安野に興味をもつ。
- 1967(昭和42)年 松居直と文字のない絵本について話し、絵本制作に取りかかる。
- 1968(昭和43)年 初めての絵本『ふしぎなえ』(福音館書店)出版。この絵本は、1970(昭和45)年シカゴデビューン・オーナー賞、1973(昭和48)年には翌年の『さかさま』とともにブルックリン美術館賞を受賞。
- 1969(昭和44)年 『さかさま』(福音館書店)出版。雑誌『数理科学』の表紙絵を1980(昭和55)年まで担当。
- 1971(昭和46)年 『ふしぎなさーかす』(福音館書店)出版。
- 1974(昭和49)年 『ABCの本 へそまがりのアルファベット』(福音館書店)出版、芸術選奨・文部大臣新人賞受賞。英米でも出版、翌年ブルックリン美術館賞、ケイト・グリナウェイ特別賞等受賞。
- 1975(昭和50)年 『かぞえてみよう』(講談社)出版、翌年講談社出版文化賞、翌々年ポストン・グローブ・ホーンブック賞受賞。
- 1976(昭和51)年 『あいうえおの本』(福音館書店)出版。
- 1977(昭和52)年 『もりのえほん』(福音館書店)出版。
- 1979(昭和54)年 『天動説の本』(福音館書店)出版、絵本にっぽん賞受賞。
- 1980(昭和55)年 『魔法使いのABC』『魔法使いのあいうえお』(童話屋)出版。
- 1984(昭和59)年 国際児童図書評議会の国際アンデルセン賞画家賞受賞。
- 1988(昭和63)年 紫綬褒章受章。その後、1997(平成9)年勲四等旭日小綬章、2012(平成24)年文化功労者。
- 2001(平成13)年 故郷津和野町に安野光雅美術館開館。
- 2014(平成26)年 『空想工房の絵本』(山川出版社)出版。



◆展覧会構成（画像掲載作品は、すべて津和野町立安野光雅美術館所蔵 ©空想工房）

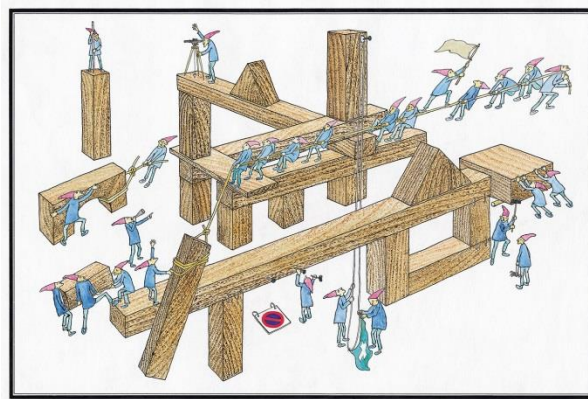
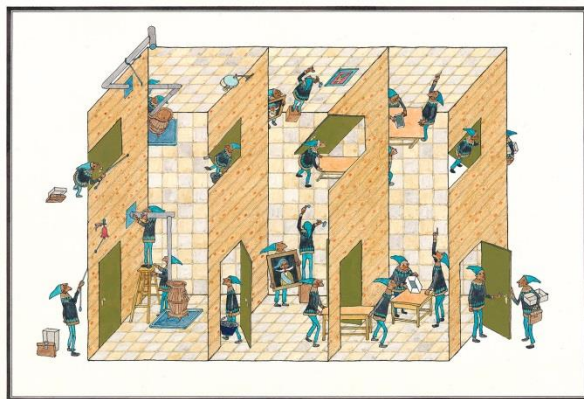
絵本のノーベル賞とも言われる国際アンデルセン賞を受賞している安野光雅。安野が絵本を手掛けるようになってきっかけは、ヨーロッパ旅行で出合ったM.C.エッシャーの画集がきっかけでした。緻密な造形力により二次元平面に生み出されるエッシャーの迷宮のような世界——このような世界を表した絵本が作れないかと、安野は福音館書店の松居直に相談します。松居は、当時美術教師を務めていた安野の教え子の父親でした。そして、絵本の絵には言葉があるという松居の考えに励まされ、完成させた安野の絵本デビュー作が、当時世界的にも珍しい文字の無い絵本『ふしぎなえ』でした。ここから、安野光雅の「ふしぎ」な絵本世界が始まります。

## □第1章 ふしぎなせかい

『ふしぎなえ』 福音館書店 1968年  
『さかさま』 福音館書店 1969年  
『ふしぎなさーかす』 福音館書店 1971年  
『もりのえほん』 福音館書店 1977年  
『空想工房の絵本』 山川書店 2014年

あがってもあがっても1階のままの階段や、途中で天地が逆転してしまう迷路など、安野の絵本デビュー作『ふしぎなえ』には、文字通りの「ふしぎなえ」がいっぱいです。二次元の世界と三次元の世界が組み合わさった『ふしぎなさーかす』や、細密に描かれた森の中に動物が隠れている『もりのえほん』など、遊び心満載な安野の「ふしぎなせかい」を紹介します。

### 『ふしぎなえ』 福音館書店 1968年



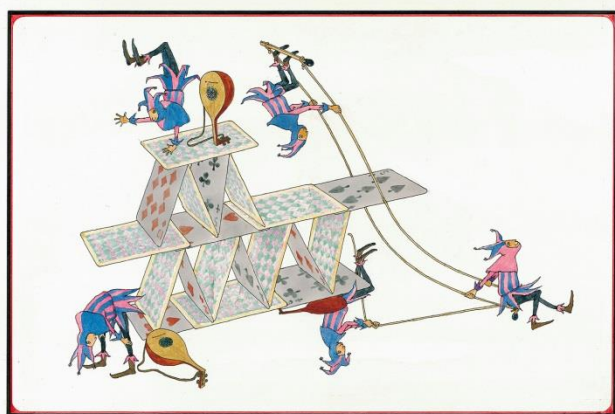
「[前略]この大罪人の中に、M・C・エッシャーという人があります。彼は思いもよらぬ構想で、精密なる計算のもとに、古典的な遠近法を逆用して、摩訶不思議な世界を表現いたしました。

[中略]

被告は、この人の作品に魅せられたのです。そしてその呪いにかかったのであります。空想過多症の人間が呪いにかかって自分を失ったのは無理もないことです。そのために、彼は文字を忘れ絵本に文章をかきそえることができませんでした。しかし、このことはこの絵本に登場する小人が、見る人によってそれぞれちがった言葉をしゃべり、自由な解釈をもたらすという好結果をまねいたようであります。

—— 安野光雅『『ふしぎなえ』について』『空想工房』平凡社、2016年（初版1979年）、pp.113-114。

『さかさま』 福音館書店 1969年



「私たちの国の住人は、王様をはじめ女王様も兵士もほとんどの人が天地のみさかいのつかない人たちばかりです。だから百年、いや何百年も前から、そのどちらが上で、どちらが下かという問題をめぐって論争がおこり、国をあげての内乱にまで発展したのです。それをしずめてくださったのが[ルイス・]キャロルさんでした」。

—— 安野光雅『さかさま』について『空想工房』  
平凡社、2016年(初版1979年)、p.125。

『ふしぎなさーかす』 福音館書店 1971年

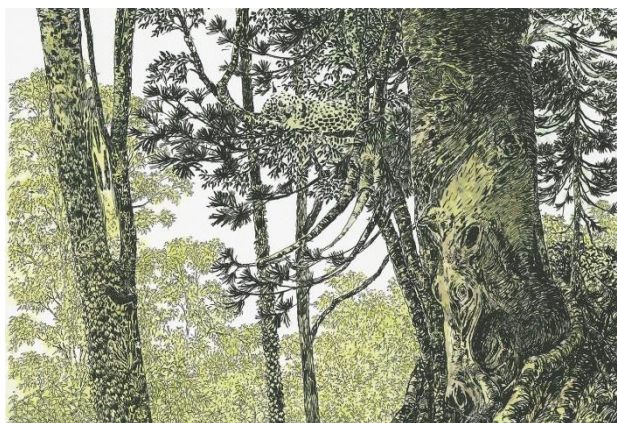


「みんなが ねむったら  
ふしぎな さーかすを はじめましょう  
たまのりや まじゅつや もうじゅうつかい  
それは もりだくさんで ございます  
ずーっと おわりまで びえろの ペペが  
ごあんない いたします

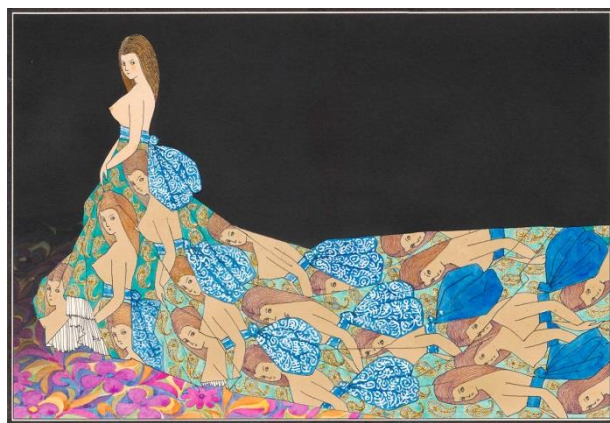
でも みなさんは めをあげてはいけませんよ  
こびとたちが こわがりますから」

—— 安野光雅『ふしぎなさーかす』福音館書店、  
1971年、p.4。

『もりのえほん』 福音館書店 1977年



『空想工房の絵本』 山川出版社 2014年





## □第2章 文字をたのしむ

『ABCの本 ヘそまがりのアルファベット』

福音館書店 1974年

『あいうえおの本』 福音館書店 1976年

それぞれのアルファベット、それぞれのひらがなの文字と、その文字で始まる名前のものの図像を組み合わせた絵本、『ABCの本』と『あいうえおの本』。木製の立体物として表された文字はそれぞれに、“へそまがり”にねじまがったり、ありえない組み合わせ方で描かれたりしています。その周りに描かれた繊細な装飾にもそれぞれの文字で始まる名前のものの図像が隠されており、それらを発見する楽しみを味わえます。

### 『ABCの本 ヘそまがりのアルファベット』 福音館書店 1974年



“M” Mirror, Map

「Dの項で、ある米人教授は、

「私の知っているDevilはこのようなものではない、かくかくしかじかの格好をしている」といって悪魔の姿態を演じて見せた。

「しからは、貴下は悪魔を御覧になったことがあるのだろうか」

「……………」。主任が私の言葉をどのように通訳してくれたか知らないが、外国の文化と、私のイメージを調整する物語は、ゆうに『蘭学事始』と紙数を同じくする書物となるはずである」。

—— 安野光雅『ABCの本 ヘそまがりのアルファベット』福音館書店、1974年、n.pgn。

### 『あいうえおの本』 福音館書店 1976年



“は” はさみ

「一年前、ABCの本を作った。位相的な作品の習作の中から、突然ヒントをつかみ、英語圏の人々の協力も得て本ができあがった。この仕事を通して、“辞典的には同じ概念をもつことばでも、文化的背景によって、その画像とするところは大きく違う”ということを実感し、思いがけぬ収穫を得た。

この経験をいかして、“あいうえおの本”をかこうと思いついた」。

—— 安野光雅『あいうえおの本』福音館書店、1976年、n.pgn。

## □第3章 科学のおはなし

『天動説の絵本  
てんがうごいていたころのはなし』  
福音館書店 1979年

天動説から地動説へと移り変わる過程を描いた物語『天動説の絵本』。安野はあとがきで「迷信に埋まっていた古い時代から新しい科学の時代をむかえるまで……それは文字通り天と地がひっくりかえるほどのはげしい変わりようであったことを、ぜひ子どもたちに伝えたいのです」と語っています。かつて使用されていた羊皮紙の雰囲気や醸し出すように、安野自身が色を染め、シワやシミを施したこだわりの紙も注目です。

### 『天動説の絵本 てんがうごいていたころのはなし』 福音館書店 1979年



「コペルニクスが地動説に思いをはせたとき、きっと眠れぬほどのおそろしさを体験したでしょうし、70歳の老人となって無知な裁判官の前にひざまずかねばならなかったガリレオは、どんなに無念だったことでしょう。まして、正しいと信ずることのために火刑にあわねばならなかったブルーノの胸の中はどんなだったでしょう。

そうした歴史を思うと、「地球は丸くて動く」などと、なんの感動もなしに軽がるしく言ってもらっては困るのです」。

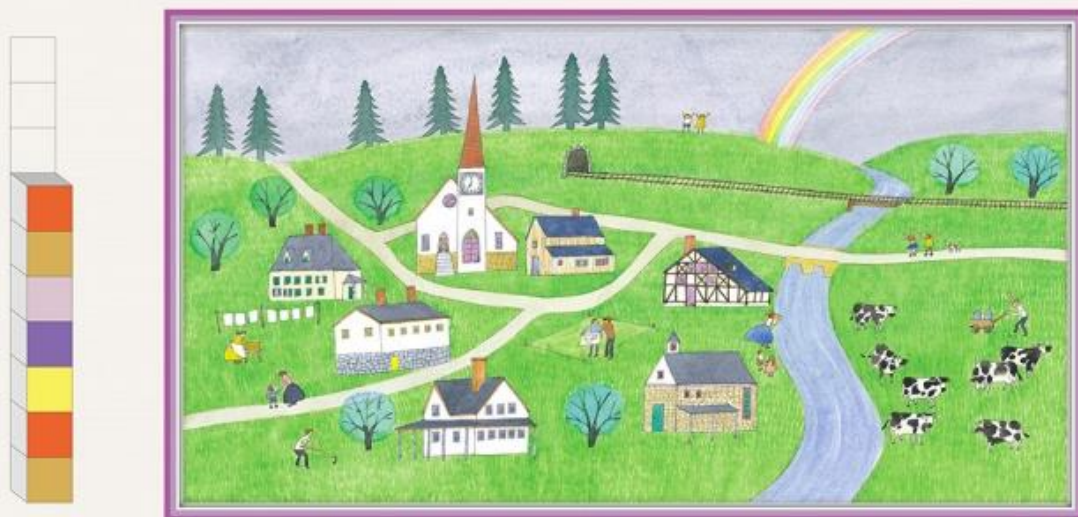
—— 安野光雅「解説とあとがき」『天動説の絵本 てんがうごいていたころのはなし』福音館書店、1979年、n.pgn。

## □第4章 数字とあそぼう

『かぞえてみよう』  
講談社 1975年

安野は数学にも造詣が深く、数学をテーマにした絵本も数多く手掛けています。『かぞえてみよう』は、はじめて数に出会う子どもたちに向けられた絵本です。何もない大地「0」から始まり、やがて人や家が増えていき、「12」にいたるまで、月ごとの変化も交えながら描かれています。美しい絵とともに「数える」楽しみと「発見する」楽しみを味わい、数学への親しみを促す絵本です。

『かぞえてみよう』 講談社 1975年



「きのう、おととい、という日々も数で表すことができます。これは、365日というような量としての日数でなく、1日め、2日めというように、数を応用して日に名まえをつけたものです。部屋の番号や所番地なども、これと同じ使い方です。

大人にはわかりきったはずのことですが、はじめて数にであう子どもたちをめんくらわせないために、もう一度ふりだしにもどって考えておきたいことだと思えます」。

—— 安野光雅「数のこと」『かぞえてみよう』講談社、1975年、n.pgn。



## ◆関連イベント

### 講演会・講座

□特別講演会(会場:静岡県立美術館講堂 申込不要、無料、先着250名様まで)

「安野光雅の世界」

講師:齋藤道夫氏(津和野町立安野光雅美術館副館長)

日時:8月11日(土) 14:00~15:30

□フロアレクチャー(集合場所:静岡県立美術館企画展第1展示室 申込不要、観覧料が必要です)

静岡県立美術館学芸員が展示室にて解説を行います。

日時:7月28日(土)、8月19日(日) いずれも14:00より30分程度

### 特別ワークショップ

□つみきワークショップ(会場:静岡県立美術館実技室 要事前申込、無料、各回25名程度)

「つみきのそのさんとあそぼう! ふしぎのせかい」

講師:つみきのそのさん(つみきアーティスト)

日時:8月4日(土)

1回目:10:10~12:40

2回目:13:20~15:50

対象:3歳以上のどなたでも(小学生3年生以下は保護者と参加してください)



『あいうえおの本』でたのしいよみきかせも!

■申込み方法など、詳しくは約1ヶ月前頃から、美術館ウェブサイトおよび館内配架チラシでお知らせします。

## 実技体験講座

(会場:静岡県立美術館実技室 いずれも定員制、要事前申込、要参加費[材料費実費と必要な場合の観覧料])

\*タイトルはすべて仮です。

□実技講座「水彩画(絵本『かぞえてみよう』をテーマに実施)」

講師:野呂美樹(静岡県立美術館実技室インストラクター)

日時:8月5日(日) 10:00~16:00(予定)

対象:中学生以上の個人

□わくわくアトリエ「切り絵(絵本『あいうえおの本』をテーマに実施)」

講師:福井利佐氏(切り絵作家)

日時:8月26日(日) 10:00~16:00(予定)

対象:小学生から大人まで(小学校3年生以下は保護者と参加して下さい)

□未就学児向けワークショップ「トンガリ帽子をかぶって展覧会に行こう！」

講師:丸山成美(静岡県立美術館実技室インストラクター)

日時:8月25日(土)

対象:小学校就学前のお子さま(保護者と参加してください)

■イベントはいずれも予定です。詳しくは展覧会公式サイトもしくは美術館ウェブサイトをご覧ください。

■申込み方法など、詳しくは約1ヶ月前頃から、美術館ウェブサイトおよび館内配架チラシでお知らせします。

## 同時開催の収蔵品展

□「新収蔵品展」7月14日(土)~9月2日(日)

## 次回展覧会

□「幕末狩野派展」9月11日(火)~10月28日(日)

## ■お問い合わせ先

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 静岡県立美術館

学芸課担当(三谷) Tel:054-263-5857 Fax:054-263-5742

総務課担当(小澤) Tel:054-263-5755 Fax:054-263-5767

# 「安野光雅のふしぎな絵本展」 広報用画像申込書

**安野展 担当宛 FAX: 054-263-5742 E-mail: annofushigi@gmail.com**

## 【画像使用のお申込み方法】

「安野光雅のふしぎな絵本展」広報用画像使用ご希望の際には、ご使用希望の本書式画像番号に丸を付け、媒体情報の欄すべてをご記入の上、上記 Fax 番号もしくはメールアドレスにお送りください。メールでお申込みの場合は、お手数ですが追ってお電話でご一報いただけますとより確実です(総務課 054-263-5755 もしくは 学芸課 054-263-5857)。

## 【画像使用上の注意】

- \* 画像は、本展の取材・告知を目的とする場合に限りご提供いたします。その他の用途に用いることは固くお断りいたします。またご使用後は速やかにデータを消去してください。
- \* 各作品のタイトル等の表記は、下記の表の通りです。
- \* 画像のトリミング、文字のせはご遠慮ください。
- \* 作品タイトル等の確認をさせていただきますので、原稿が出来上がりましたら、ゲラを上記 Fax 番号もしくはメールアドレスに送付して下さい。なお、確認にはしばらくお日にちを頂戴する場合もございます。余裕をもってのご送付をお願いできれば幸いです。
- \* ご掲載後は、**掲載誌 3 部**を以下にお送りください。  
〒422-8002 静岡県駿河区谷田 53-2 静岡県立美術館 学芸課 安野展担当者 宛

## 【ご提供する画像】

ご提供する画像は、以下の 3 点です。ご使用希望の画像の番号に丸を付けてください。3 点以上、あるいは別の作品画像の掲載をご希望の場合は、静岡県立美術館・安野展担当者まで、別途ご連絡ください。

番号	作家名・作品名・制作年・クレジット
1	ふしぎなえ 1968 年 ©空想工房 津和野町立安野光雅美術館蔵
2	さかさま 1969 年 ©空想工房 津和野町立安野光雅美術館蔵
3	(安野光雅氏 肖像写真)

**媒体情報** (すべてご記入ください。特に E-mail は、はっきりとわかりやすく書いてください。)

掲載誌名 : \_\_\_\_\_

発行日 : \_\_\_\_\_ 発行所 : \_\_\_\_\_

御社名 : \_\_\_\_\_

部署名 : \_\_\_\_\_ ご担当者名 : \_\_\_\_\_

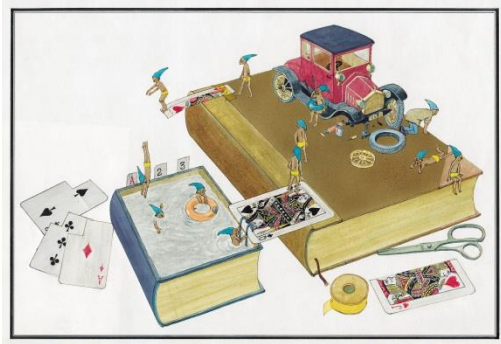
住所 : 〒 \_\_\_\_\_

電話 : \_\_\_\_\_ Fax : \_\_\_\_\_

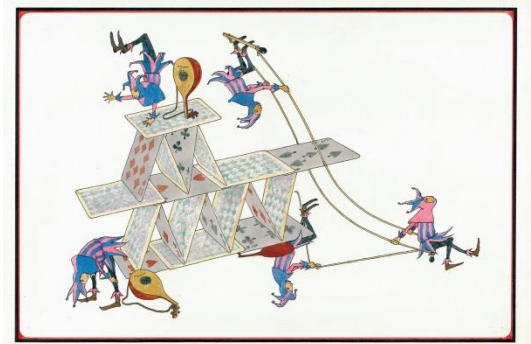
E-mail : \_\_\_\_\_



①



②



③

